

平成 27 年度

学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼 崎 市 立

武 庫 中

学 校

平成27年度 学校評価

[各校の重点取組について]

本年度は、本校では、「知・徳・体のバランスのとれた人間の育成を目指す。」という目標をかかげ、具体的な取り組みとして、「学び続ける意欲・態度を育てる」「豊かな心を育む」「基本的な生活習慣を身につける」を設定し、その達成に向けて学校全体で努力してまいります。

学校教育に関する重点取組

	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる (1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育充実の取組を促進し、自立や社会参加に向けた主体性を育成する	3	3
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・学力分析を行い、授業改善に取り組む。 ・小中交流を通じ、校種間での情報の共有を図ることができた。(中学校にて6年生の授業を実施。小中合同研修、相互授業参観、生徒指導上の情報交換、英語科の連携) ・基礎学力向上を図るため、「朝の学習」を充実させる。 ・大学生の補助員による土曜チャレンジスクール(全校生)と金曜日の放課後学習(3年生)を行う。 ・チャイム1分前に音楽を鳴らしてチャイムと同時に授業する。 ・家庭学習の時間(塾をのぞく)を毎学期調査して、家庭の協力を求める。 ・特別な支援が必要な生徒一人一人の個別計画を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力分析を行い、これからも授業改善に取り組んでいく。 ・小中交流では、教科において情報交換を進める必要がある。 ・チャイム1分前に音楽を鳴らしてチャイムと同時に授業することができるようになってきた。 ・授業改善において、市教委の授業改善アドバイザーをもっと回数を増やして活用して行く。 	

	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る (1) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (2) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (3) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する	3	3.5
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・命の大切さを学ぶ向上プログラム(講演会を年4回)を実施するに当たり道徳・学活で事前・事後授業及びアンケートをとり結果分析を行い変容ぶりを計る。・全員元気な挨拶ができる。 ・ほぼ全員元気な挨拶や校歌をしっかり歌うようになった。 ・掃除が行き届き校内校外、きれいになった。 ・長欠者個々に応じた取組を行う。(SC・SSWを活用する) ・キャリア教育を計画的に推進する。(トライやる・ウィークや進路学習の中で行う。) ・教育相談週間を設け、生徒理解に努める。(学期に1回行う。) ・いじめを決して許さない集団づくり実践事業(平成26年度県の指定)を今年度も推進する。風紀委員会を中心に携帯・スマートフォンのルール作りを行い効果があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶においては、学校だけではなく、地域の仲でもできるようにする。 ・長欠者個々に応じた取組ができた。(SC・SSWを活用する) ・キャリア教育を計画的に推進する。 ・教育相談週間を設け、生徒理解に努めることができた。 ・命の大切さを学ぶ向上プログラム講演会を1回実施した。道徳・学活で事前・事後授業及びアンケートをとり結果分析を行い変容ぶりを計ったところプラスの変化が出ている。あと3回手順で実施する。 ・いじめに関して、生徒会主催で「いじめ0運動」を今年度も継続していく。その中で、携帯・スマートフォンのルール作りを定着させる。 	

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3	3
(1) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (2) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る		
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・「学校だより」「保健だより」等各種たよりを通して基本的な生活習慣の定着・健康の増進の重要性を啓発できた。 ・家庭科の中で、食育授業を2年生で行った。尼崎市の食育サポーターとともに、弁当作りを行った。 ・遅刻者は各学年数名で、それ以外の生徒は8時25分には教室に入って朝学習をしている。 ・欠席者が少ない。 ・朝ご飯を必ず食べてくる生徒が9割である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校だより」「保健だより」等各種たよりを通して基本的な生活習慣の定着・健康の増進の重要性をより一層啓発して行く。 ・食育に関する講演会を生徒向け、保護者向けに行う。 	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3	3
(1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び校内の安全確保を図る (2) 防災教育充実の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る		
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・毎日登校時に安全指導を実施する。 ・安全教育担当を中心に、防災教育(避難訓練、防災に係る講演会)を生徒向け、職員向けにそれぞれ行う。 ・「南海トラフの巨大地震から命を守る防災」をテーマに神戸親和女子大学発達教育学部教授齋本格先生が講演会を行った。職員・生徒・保護者が参加した。 ・生徒会中心の気仙沼市の支援を続け、防災意識をさらに高めることができた。 ・小学校の児童会と中学校の生徒会合同で交通安全運動を実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日登校時に安全指導を全職員で行い、保護者の協力も得る。 ・生徒会中心の気仙沼市の支援を続け、防災意識をさらに高めて行く。 ・来年度も小学校の児童会と中学校の生徒会合同で交通安全運動を実施できるようにする。 	

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3	3.5
(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域資源活用の取組を促進し、開かれた学校園づくりを図る		
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりを地域に配布し開かれた学校づくりに努めている。 ・ホームページも3月までに、ほぼ毎日のペースで、合計200回以上の更新をして、地域に発信した。 ・授業改善アドバイザーを積極的に活用し若手教員の授業力をつける。 ・校内研究授業を9月に実施し、研究討議を行い、授業改善に役立った。 ・大阪大学小野田教授を講師に招いて、SSW研修会を校内で行い、研究討議が出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校だより」「ホームページ」の回数を増やしたり、地域行事に積極的に参加したり、地域に開かれた学校づくりを目指す。 ・若手教員を対象とした自主研修を月1回は行いたい。 ・授業改善において、市教委の授業改善アドバイザーを積極的に活用し、若手教員の授業力をつける。 	

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		3	3
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実			
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> 生徒朝礼時、全校生徒、教職員で校歌を歌い母校愛を醸成することができた。 気持ちの良いあいさつが励行され、定着した。 生徒の自治活動の推進を図る。特にクラブ員による自主清掃を継続できた。 生徒会を中心に毎月募金活動を継続。気仙沼市との交流をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育目標が日々の教育活動に反映しているかを意識し教育実践を行っていく。 生徒朝礼時、全校生徒、教職員で校歌を歌い母校愛を醸成することを続けていく。 		

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		3	3
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実			
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマ「15歳の学力保障をどのように図るか～中間層のレベルアップを中心に～」を推進する。特に、学力分析を行い、わかる授業づくりに取り組む。 心の豊かな生徒の育成をテーマの柱に掲げ、命の大切さを学ぶ向上プログラム(講演会を年4回)を実施。事前・事後授業を道徳・学活で行いアンケートをとり結果分析を行い変容ぶりを計る。 学力向上において、土曜チャレンジスクールと平日1回の補充学習は、大いに効果があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 武庫中学校の生徒が、今後身につ 学力をつけるために、家庭学習の時間を増やす工夫をする。 課題は、教師の授業力向上と授業の中での生徒指導ができるようにする。 		

		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
取組とその成果	課題と改善策		

学校関係者評価

※ 評価Ⅲの基準

4:よく取り組んでおり、成果が大きい
2:取り組んでいるが成果が十分でない

3:熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
1:取組が不十分である

学校関係者意見等	評価Ⅲ
<p>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力分析は詳細に行っていた。現在授業改善に取り組み、特に研究授業を積極的に行っていた。 ・小中交流では、小中合同研修を8月に実施や中学校にて6年生が3日中学校体験をして、中学校教師が授業を行ったのは好評であった。また、相互授業参観、生徒指導上の情報交換等校種間での情報の共有を図っている。 	3.5
<p>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掃除が行き届き校内校外、きれいになった。 ・長欠者個々に応じた取組ができた。(今年度からSSWも活用する)・教育相談週間を設け、生徒理解に努めることができている。 ・生徒会主催で「いじめの運動」を継続して、その中で、「携帯電話やスマートフォン等の適切な活用」について、文化発表会でLINEトラブル(いじめ等)の撲滅ビデオを風紀委員会が制作して上映した。 	3
<p>3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校だより」「保健だより」「生徒指導通信」等各種たよりを通して基本的な生活習慣の定着・健康の増進の重要性を啓発する等好評であった。 ・家庭科の中で、食育授業を2年生で行った。尼崎市の食育サポーターとともに、弁当作りは良かった。 	3
<p>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年で割り当てて、登下校の安全確保を行った。 ・命の大切さを学ぶ向上プログラム(講演会を年4回)の中で、今年度は、神戸親和女子大学発達教育学部教授齋本格先生を招き、「南海トラフの巨大地震から命を守る防災」をテーマで防災教育講演会を行い、職員、全校生徒、地域が参加して防災教育を学ぶ。 ・小学校の児童会と中学校の生徒会合同で交通安全運動を実施したのは良かった。 	3
<p>5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校だより」「ホームページ」による保護者や地域による発信がよくできている。 ・高齢者との交流が計画されていたが実行されていない。 ・地域のいろいろな方と交流することはこれからの人生に役立つので具体的な取り組みを考えて欲しい。 ・全体的に良好であるが、基本的な生活態度の向上を図るために、幼・小・中学校の先生の交流を密にし、年齢に応じたモラル、マナー等の指導を行って欲しい。 	3
<p>■教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治活動を教育目標に掲げているが生徒会を中心とした募金活動などの支援は素晴らしいものがある。 ・心を育てる話を生徒朝礼や道徳でしているのは大切であり今後の成果を期待している。 ・生徒朝礼時の校歌斉唱は習慣化されているが、声が小さいのが課題である。 	3
<p>■研究テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力分析を行い、わかる授業づくりに取り組んでいる。来年度は、アクティブラーニングをテーマに全職員で取り組む。 ・学力向上において、土曜チャレンジスクール・放課後学習の成果が出来てきている。 ・心の豊かな生徒の育成をテーマの柱に掲げ、命の大切さを学ぶ向上プログラム(講演会を年4回)を実施したことは評価できる。また、事前・事後授業を道徳・学活で行いアンケートをとり、変更ぶりを計った結果分析をみると成果が現れている。 	3
<p>■</p>	
<p>評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)</p>	評価Ⅳ
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	B
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B